天使
vol.18 March 2012
TENSHI COLLEGE

【特集】東日本大震災と天使大学

「東日本大震災支援プロジェクト」の発足について

「東日本大震災支援プロジェクト」リーダー
大学院助産研究科 教授　高橋 弘子

2011年3月11日(金)の東日本大震災から1年が経ちましたが、大震災後も続いた地震や原発による放射能汚染等、被害の大きさを知るにつれ、長く続く復興の道程において何ができるかを考えさせられます。

本学では、1年前の3月15日(火)の卒業式と4月4日(月)の入学式に学生会「葦の会」の学生たちが募金活動を行いました。その後、大学院助産研究科の学生や教員のボランティアが個人的な立場で現地支援に参加しました。5月、丸山知子学長から教職員へ、大学としての復興支援への取り組みについて調査があり、その結果をもとに学長直轄プロジェクトとして「東日本大震災支援プロジェクト」が立ち上がりました。

プロジェクトはリーダー高橋弘子教授(助産研究科)、メンバーの目時光紀講師(教養教育科)、鹿内あずさ講師(看護学科)、百々瀬いづみ講師(栄養学科)、高山美香さん(総務課)、大倉亜矢子さん(学務課)の6名が中心となって活動を開始しました。プロジェクトの目的は「大震災に対して、本学の理念の一環として被災者への支援を行うこと」です。プロジェクトの主な役割は、大震災支援に関する体制づくりと情報の集約および発信、支援の企画と運営ということで、募金・物資支援、震災とボランティアに関する情報収集や教育活動、学生の被災地へのボランティア参加のための準備、カトリック教会との連携等、活動を始めました。

特に、学生が震災ボランティアに参加するための安全性に対して、ボランティアの派遣・受け入れの組織や現地への交通手段・宿泊場所などの情報収集、交通費・保険などの経費・緊急時の連絡方法などを具体的に検討し、ボランティアマニュアルの作成、説明会開催など、ボランティア活動が実り多い学習の体験になるようにとの願いを持って取り組みました。

メッセージボードを作成する学生たち

支援物資を受け取る被災地の皆さん

講演会・説明会の開催は、全学共通の時間割を組む困難があり参加者数に一喜一憂しました。しかし、時をおき、実際にボランティアに行ってきた学生の報告会では、学科・学年の違う報告者の熱い思いの吐露が参加者に確実に伝わっていくのが感じられます。また、被災地でのボランティアだけでなく、後方における取り組みの重要性についても認識が深まってきたように思います。クリスマスにはボランティア受け入れ先のカトリック宮古教会(岩手県宮古市)へ「忘れていません」の心を込めて、メッセージボードを作成・発送しました。現地で「カフェ活動」(傾聴ボランティア)をしてきた学生からの情報で、冬物の下着を希望のサイズで送ることもできました。現地の人を身近に感じ、気負わずに手がだせるようになったという感があります。講演会の講師からのヒントで始まった、被災地で活用できるレシピブックの作成は、看護栄養学部看護学科・栄養学科の学生有志とともに取り組み、完成間近です。春には現地で仮設住宅の人たちと一緒に作り、食べ、意見をもらってきたいというプランを膨らませています。

今後は、今年度の活動を基盤に、被災地の状況の変化に合わせながら、息の長い活動に発展させたいと思います。このプロジェクト活動は、学生と教職員が一丸となって被災地の方々を応援したいというボランティア精神によって支えられて続けられています。活動をとおしてお互いが知り合い、協働することで新たな地平へと進んでいくことができると感じます。今後ともご一緒に活動を続けましょう。

「東日本大震災支援プロジェクト」活動報告

「東日本大震災支援プロジェクト」活動報告(2011年度)

①ボランティア活動支援

ボランティア等の情報提供や「東日本大震災支援ボランティアマニュアル」の作成・配布、全学生対象の「災害支援とボランティアに関する講演会」を開催し、2012年2月現在で7名の学生が、がれきの撤去作業やカトリック宮古教会が行っている「移動カフェ」で傾聴ボランティア活動等を行いました。

②「災害支援レシピ集」の作成

避難所や仮設住宅で暮らす方に「火や水を使わないレシピ」等の手軽なレシピ集を届けたいと考え、学生ボランティアを募り、レシピ集作成のために活動しています。この取り組みについて、2012年3月9日(金)の毎日新聞(北海道面)で紹介されました。

③支援物資等の提供

宮城県大崎市教育委員会他2団体に70台の会議用机を、カトリック宮古教会にミシンとアイロン各5台、そして、仮設住宅の結露対策用に280枚のタオルを提供しました。また、震災の記憶が風化することへの不安に対し、学生たちが被災地への想いをつづった「応援メッセージボード」をカトリック宮古教会へ贈りました。

④募金活動

支援プロジェクトの活動のため、教職員や学生、同窓会の協力を得て募金活動を行いました(計319,857円)。

⑤節電の実施

学内の蛍光灯の間引きや節電啓発ポスターを作成・掲示し、節電意識を高めた結果、電気使用量は昨年比5.6%、ガス・水道使用量は昨年比2%～10%程度の減少となりました。

⑥その他(広報活動)

「プロジェクト通信(学内向け)や天使大学ホームページ(「東日本大震災に対する本学の取り組み」)で、定期的な情報発信を行いました。そして、2012年3月に「2011年度東日本大震災プロジェクト活動報告書」を発行しました。

教員による災害支援ボランティア活動

看護学科教員による「災害支援ボランティア報告会」を開催しました

看護栄養学部看護学科(地域看護領域)の白井英子教授、針金佳代子准教授、鹿内あずさ講師の3名が、東日本大震災で被災した岩手県上閉伊郡大槌町で2011年5月に全戸訪問の災害支援ボランティア活動に加わり、5月27日(金)に学内で報告会を開催しました。当日は、多くの学生や教職員、報道関係者が出席し、3名の話に熱心に耳を傾けていました。

災害支援ボランティアは社団法人「全国保健師教育機関協議会」の呼び掛けに応じて行われたもので、全国から125名の保健師が参加しました。大槌町は津波によって町長をはじめ多くの貴重な生命が失われました。町役場の住民基本台帳や保健活動の記録類も全てが流れてしまいました。町内に避難所が分散し、住民が何処でどのように生存しているのかさえ把握できない状況でした。保健師は班を編成し、地区ごとに分かれ在宅で被災した方々や避難所で生活する方々の健康状態、暮らしぶりや家族構成、また、現在困っていることや行政に望むことなどを聞き取りながら住民のケアを行い、さらに、住民のニーズを緊急度・重要度別に分けて町の対策に反映させるという役割を担いながら活動しました。

報告会では、大槌町の概要や被害の状況、災害支援ボランティアの活動内容、滞在中の生活について、パワーポイントを使って説明が行われました。説明とともに、「当初、『行方不明』となっていた方が訪問調査によって生存が確認できた時はとても嬉しかった」、「避難所を訪問した際、町内会の絆がしっかりしている地区は間仕切りがなく、お互いに顔の見える関係を大切にしていた」など、現地でのエピソードも紹介されました。そして最後に、「一軒一軒の家庭がお互いを大切にしながらつながりをもって生活することで、ひとつの『地域』になる、という“原点”について考えさせられた。また、今回のボランティア活動を通じ、“頑張れ”という言葉は、被災者に対してではなく、実は、私たち自身に投げかけられた言葉ではないかと感じた。」という今回の活動を通じての感想が話されました。

報告を行う白井教授、針金准教授、鹿内講師(左から)

大槌町へ向かう途中(新青森駅にて)

今回の報告会に参加した学生からは、「保健師が地域において、なくてはならない存在だということを実感しました」、「普段、ニュースなどで見ていた光景が、今回の報告会でより身近なものになりました」、「病気や身体の状態、精神状態、インタビューの方法など、大学で学んでいる内容が、現場でとても重要であるということを改めて認識しました。しっかり勉強していきたいと強く思いました」、「報告会に参加し、薬などの必要な、生活習慣病を抱えた人が、被災地では命の危険にさらされていることなどを知り、慢性疾患の患者さんに対し何かできることはないかと考え始めました」など、多くの感想が寄せられました。

＜インタビュー＞

山田町（岩手県）でボランティア活動を行った清水さん、久保田さん

大学院助産研究科助産専攻（助産基礎分野）2年の清水 愛さんと久保田泰加さんの2名が、2011年5月に岩手県下閉伊郡山田町の救護本部で看護師として支援活動を行いました。活動の内容や活動を通じて感じたことなど、お二人にお話を聞きました。

山田町の救護本部にて

今回、ボランティア支援を行ったきっかけは？

清　水：3月11日の東日本大震災後に、実家のある東京、父母の地元である愛媛、長崎、そして札幌とさまざまな場所に行きましたが、これだけの大震災が起こったにもかかわらず、被災地から離れれば、関心の度合いが異なることを感じました。私自身は学生であり、社会人の方よりは時間はあります。また、医療関係者で被災地で支援活動をした友人からも、「ボランティアに行けるなら、ぜひ行ってほしい」というアドバイスがありました。ゴールデンウィークには、ボランティアに行こうと考えていました。教会で、カトリック団体が行っている被災地支援のボランティアを知り、ぜひ行こうと思いました。

久保田：清水さんに誘われたことが、直接のきっかけです。現地に行った当初は、側溝の清掃など一般ボランティアとして活動しました。偶然、一緒にボランティア活動していた方の弟さんが札幌市医師会でJMAT（Japan Medical Association Team：日本医師会災害医療チーム）の活動をされていて、私達が看護師の免許を持っていたことから紹介していただき、看護師が不足していた山田町の救護所で看護師として支援活動を行うことになりました。

現地で行った活動について教えてください。

清　水：避難所の巡回を行いました。そこでは、各避難所による違いや、家屋が無事な知人のところで避難していた人が、その後、避難所に移るという状況がありました。その理由としては、仮設住宅の情報が避難所にしか伝わっていないことや、お世話になっていることに対する気兼ねがあったようです。

久保田：1歳半健診の介助をさせていただきました。印象的だったのは、「母子健康手帳」です。真新しかったり、しわしわだったり、今まで記録したものが津波で流されて、記憶をたどりながら、記入したり。予防接種が進んでいないという状況も見られ、母子保健や小児医療が置き去りにされているという印象を受けました。ただ、これは今回の大震災によるものだけではなく、小児科や産科が地元にないなどの地域が抱える「医療格差」の問題もありました。これらのことを通じて思ったことは、「地域が『自立』できる支援」とは何だろうということです。そのような視点を持ちながら、今後もボランティア活動などをとおして被災地にかかわっていきたいと考えています。

久保田泰加さん

被災地に実際に行かれてみて、どのようなことを感じましたか？

清　水：最初に行った岩手県宮古市では、市内で、大きな被害を受けた地域とあまり被害を受けていない地域が混在していました。その場合、地域差が出てしまい、復興も大変だと感じました。

久保田：自治体そのものが被災してしまっている状況だったため、ボランティアと地域のニーズとの調整の難しさを感じました。その一方で、東北地方は「コミュニティ」がしっかりしているとも感じました。例えば、大震災直後、保健師や介護福祉士の仕事を退職や休職していた被災者の方たちが計画を立て、支援を行っていたと聞きました。また、お互いに「気心が知れている」地域も多く、避難所によっては「間仕切り」がないところもありました。それができる「地域力」というものを今回、実感しました。一人だけで立ち直ることは難しいと思います。お互いに協力することが大切です。

清水 愛さん

学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

清　水：今回、被災地へボランティアに行ったことについて、周りの人から「すごいね」、「私も行きたいけど、難しい」という言葉をかけられましたが、決して私自身は行く前から自信を持っていたわけではありません。自分の生活を犠牲にしてまでとは思いませんが、ぜひ皆さんにもボランティア活動に参加してほしいです。一時期に比べ、ボランティアの数が減っているというニュースを耳にします。私の経験を一人でも多くの人に伝えることで、少しでもボランティアの輪が拡がればと思います。

久保田：学生の皆さんには、「自分は、まだまだ専門知識もないし…」ではなく、「学生だからこそ」という気持ちでボランティアに積極的に参加してほしいと思います。一般ボランティアとしてでも、やれることはたくさんあります。行動することで、得られるものも大きいですよ。

看護学科のカリキュラム変更

2012年度より、看護学科のカリキュラムが変わります

これまで看護栄養学部看護学科では、看護師・保健師両方の国家試験受験資格を取得できるいわゆる「統合化カリキュラム」を採用してきましたが、2012年度入学生から4年間で看護師教育のみを行うカリキュラムに変わります。

その理由は、保健師助産師看護師法が2009年に改正され、保健師教育課程の修業年限が「6ヶ月以上」から「1年以上」になり、取得単位数も実習の5単位を含む「28単位」に大幅に増加したことにあります。また、日本看護協会は、社会の変化に対応し得る高度な実践力を備えた看護師を養成できるよう、大学では看護師教育のみの教育課程を推進して看護基礎教育のさらなる充実を図り、保健師教育・助産師教育は看護師教育に積み上げるかたちで大学院での養成を推進すべきであるという見解を示しています。

以上のことを踏まえ、天使大学では「看護師および保健師の資格取得に必要な教育内容」と本学が大切にしてきた「人間性を育む教育プログラム」を組み込むことによるカリキュラムの過密化を避け、「愛をとおして真理へ」の建学の精神を大切にした教育を継承しつつ看護基礎教育をさらに充実させ、時代のニーズに対応した実践力のある質の高い看護師を育成することとしました。

カリキュラムの変更により、卒業時に取得できる国家試験受験資格は「看護師」のみとなります。保健師教育は、高度専門職業人の養成を目指し、2016年度より大学院修士課程で行う予定です。

【新カリキュラム概要（卒業に要する単位数他）】

＜卒業に要する単位＞　126単位（教養教育科目を含む）
＜学位＞　学士（看護学）
＜卒業時の取得資格＞　看護師国家試験受験資格
※保健師教育は2016年度より、大学院修士課程で行う予定

【新カリキュラムの特徴】

1. キリスト教精神を基盤にした豊かな人間性を育みます
2. 看護技術演習や実習などのさらなる充実により、看護の実践能力を強化します
3. 看護者としての問題意識をもち、主体的に考え行動できる能力を強化します
4. 看護専門職としてキャリアを発展させるために必要な力を強化します
5. 看護栄養学部の特色を生かした学習により、連携・協働に必要な力を強化します
6. 国際的な視野と多様な環境下で生きる人に貢献できる人材を育成します

つれづれ考

本学教職員によるリレーコラム（第六回）

ほどほどが良さそう

大学院看護栄養学研究科　教授
斉藤 昌之

それまで「正しい、善い」と思われていたことが、時の流れや場所によって「間違い、悪い」と逆の判断・評価になることは、政治や経済の世界だけではなく、客観性を求められる自然科学や医学の分野でもしばしば見受けられます。「肥満」についてもその意味や評価が一昔前と全く逆になっています。

わが国では、ここ数十年にわたって肥満者が増加し続けており、現在では成人男性の3割、女性の2割が肥満していると言われています。改めて、広辞苑で「肥満」をみると「肥え太ること」とあります。さらに、「肥える（こえる）」は①地味が豊かになる、②体の肉が増す、太る、③経験をつけ良いものを見定める力がつく、豊かになる、と解説されています。また、「丸々太った赤ちゃん」とも言います。これらを見る限り、「悪い」というよりは「善い」意味合いしかありません。実際に、「こえる」は「子得る」とも書かれ、五穀豊穣・子孫繁栄にもつながります。

その一方で、「こえる」は「超える」でもあります。つまり、体重や体脂肪が過剰になる肥満では、膝や腰の痛みといった重過ぎの影響に加えて、脂肪細胞から出るホルモンが異常となり糖尿病や高血圧などの様々な生活習慣病の一因となることが分かってきました。このように「肥満の悪影響」についての医学的根拠が明らかになるにつれて、その対策が叫ばれるようになりましたが、それと同時に、肥満の原因である体脂肪そのものが「悪」として目の敵にされているようです。

それでは、体脂肪は悪いことばかりなのでしょうか？いいえ、体脂肪は飢餓に備えるエネルギー源として必須ですし（食事無しでも1ヵ月以上生き延びれるほどです）、皮下脂肪は防寒に役立っています。さらには、体脂肪が少なすぎると生理不順になったり感染抵抗力も落ちてしまいます。つまり、体脂肪は豊かさの象徴とは言わないまでも普通に生きてゆくのに必要なものなのです。ですから、肥満を気にする余りに無理なダイエットなどでやせすぎると、かえって健康を害することになります。

結局、「正しい、善い」とか「間違い、悪い」という二者択一的な決め付けではなく、「中間でほどほど」が良さそうというごく常識的なことに落ち着きますね。

地域連携

札幌市東区との地域連携協定を締結しました

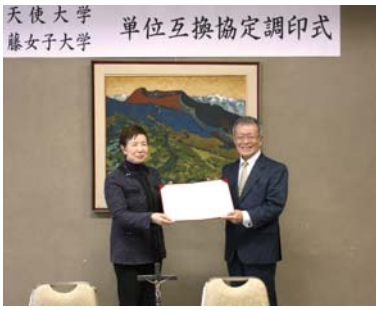
本学は、札幌市東区、学校法人札幌大谷学園 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、学校法人吉田学園 専門学校北海道体育大学校との間で地域連携協定を締結しました。

地域連携協定は、それぞれの持つ資源や機能を生かして、健康づくりの推進や芸術文化およびスポーツの振興、子育て支援、地域連携事業を通した実践能力の育成等の取り組みについて連携協力を行い、相互の発展と東区のまちづくり推進に寄与することを目的としています。

2012年3月26日(月)に、札幌丘珠空港ビル(札幌市東区)で「地域連携協定締結式」が行われました。今後、四者連携の公開講座等も行う予定です。

単位互換協定

藤女子大学と単位互換協定を結びました



藤女子大学と相互の大学院間の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、本学大学院看護栄養学研究科および藤女子大学大学院人間生活学研究科の大学院学生がそれぞれの相手大学大学院の授業科目を履修し、単位を修得できる単位互換制度を導入し、単位互換に関する協定を締結しました。

2012年2月2日(木)に藤女子大学北16条キャンパスにおいて天使大学・藤女子大学単位互換協定調印式が行われ、本学の丸山知子学長と藤女子大学の喜田 勲学長が協定書に署名しました。

合同体験学習

夕張市で北海道薬科大学との合同体験学習を実施

地域医療の講義のようす

本学と「教育・研究・地域貢献に関する包括連携協定」を締結している北海道薬科大学と、北海道薬科大学が連携協定を締結している夕張医療センターとの合同体験学習が2011年9月6日(火)から9月8日(木)までの3日間にわたり、夕張医療センターで行われました。今回の体験学習には、本学看護栄養学部看護学科および栄養学科、そして北海道薬科大学薬学部薬学科の学生、計18名が参加しました。合同体験学習は、地域医療や多職種連携の重要性を高齢化著しい夕張市で学ぶことを目的としており、学生たちは、診療所のスタッフとともに患者宅を訪問し、訪問診療や訪問看護を見学することで、在宅医療に対する理解を深めました。

「教育・研究・地域貢献に関する包括連携協定」は、2008年11月7日(金)に締結し、看護師や管理栄養士、薬剤師養成課程において、相互の教育カリキュラムを連携・協同し実施することで、医療職者間の相互理解を深め、卒業後の協力の円滑化を促進し、実務における職能の幅を広げ、地域医療への貢献を図ることを趣旨としています。今回の合同体験学習以外にも、教員の交流や公開講座の連携実施を行っています。

産学連携

学生が考案したパンが発売

焼きピロシキ

黒糖メロンパン

ジンジャーレモン

看護栄養学部栄養学科学生が考案した「焼きピロシキ」、「黒糖メロンパン(ローストクルミ入り)」、「ジンジャーレモン」の3種類のパンが、2012年3月1日(木)に日糧製パン株式会社より発売されました。「おいしく、北海道らしく」をテーマに共同開発が行われ、「自分たちがこんなときに食べたい菓子パン」をコンセプトに学生がアイデアを提案しました。

「焼きピロシキ」は、カロリーは気になるけどお腹一杯になりたい欲張りな女性のために。タケノコが入っていて食物繊維も豊富で、鶏肉や春雨を使用し、さらには、油で揚げていないなど、ボリューム感はありながら、ヘルシーな一品です。

「黒糖メロンパン」には美容や老化防止にも関わるビタミンEが豊富なクルミをたっぷり使っています。そして、「ジンジャーレモン」は、女性に好まれるふわふわの白いパンに生姜をまぶしたレモンピールが練りこんであります。体を温める作用のある生姜は今や大ブームの食材の1つです。また、味も今までにない食べたらくせになる美味しさです。

今回の商品は、パッケージにも学生のアイデアが採用されました。今後、新たな共同開発も検討されています。

キャンパスベンチャーグランプリ

「第7回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」で最優秀賞受賞

プレゼンテーションを行う学生たち

キャンパスベンチャーグランプリ北海道実行委員会主催、日刊工業新聞社共催の「第7回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」において、本学研究系サークルの「北の食物研究所」の有志3名（看護栄養学部栄養学科4年 北崎安紗美さん、石崎惠子さん、小林由季さん）の「当別町亜麻食品開発プロジェクト」が最優秀賞に選ばれ、2012年2月3日（金）にホテル札幌ガーデンパレス（札幌市）で表彰式が行われました。

今回、北崎さんたちは、「北の食物研究所」の活動を通じて出会った、北海道でしか栽培されない亜麻の種子の保健機能等に注目し、亜麻種子を活用した食品として「亜麻の実入りグリッシーニ（スティックパン）」と「亜麻の実入りじゃが饅頭」の製造・販売や、亜麻畑の近くへの店舗の設置、インターネット販売も行い、ホームページ上で亜麻の成長の様子も随時更新することで、亜麻の知名度アップと地域活性化を目指すという提案を行いました。審査員からは「北海道に特徴的な食素材の活用や地域の市民活動との連携などの方向性にマッチしたもの」と、高い評価をいただきました。

亜麻の実入りじゃが饅頭

キャンパスベンチャーグランプリは大学（大学院）、高等専門学校、短期大学、専門学校に在籍する学生、大学院生を対象にしたビジネスプランコンテストで、テクノロジーとビジネスの2部門があります。「北海道」、「東北」、「東京」、「中部」、「大阪」、「中国」、「四国」、「九州」の8エリアで実施されています。「第7回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」では、16大学・専門学校から76件の応募がありました。2012年3月8日（木）には各エリア代表による「全国大会」が東京で開催されました。

レシピコンテストで入賞

栄養学科1年 金川さんが レシピコンテストでW受賞

看護栄養学部栄養学科1年 金川綾華さんが、2011年11月に行われた2つのレシピコンテストでW受賞しました。11月19日（土）に行われた、「おうちでできるエゾシカ肉料理コンテスト」では、最優秀賞（「おいしか！ビビンバ」）を受賞しました。

「おうちでできるエゾシカ肉料理コンテスト」で最優秀賞を受賞した「おいしか！ビビンバ」

このコンテストは、北海道生活環境部エゾシカ対策室が関連事業として開催したもので、家庭で気軽にできるエゾシカ肉と道産食材を組み合わせたオリジナリティある料理を募集、道内から60を超えるレシピの応募がありました。

北海道教育委員会教育長賞を受賞した「野菜がおいしい！"塩"チーズケーキ」

金川さんは、「他の出場者のみなさんの料理がどれもおいしくて、最優秀賞に選ばれるとは思ってなかったので、とてもうれしいです。ビビンバは家でもよく作っていたので、“おうちでできる”というコンセプトにぴったりだと思い、選びました。ジンギスカンのたれを使ったり、お鍋でごはんを炊くなどの工夫もしました。これからもコンテストへの応募をはじめ、さまざまな新しいことにチャレンジしていきたいです。」と語ってくれました。

W受賞した金川綾華さん

また、11月22日（火）に行われた、「牛乳・乳製品利用料理コンクール」では、金川さんの「野菜がおいしい！"塩"チーズケーキ」が北海道教育委員会教育長賞を受賞しました（栄養学科4年 長津 雪さんの「カルシウムたっぷり ひじポテ焼き」が優秀賞を受賞）。

このコンクールは、牛乳・乳製品をもっと料理に利用し、さらに豊かな食生活を築くことを目的とし、北海道牛乳普及協会とホクレン農業協同組合連合会の主催で毎年行われ、今回で32回目となります。今回は道内各地から、一般、学生、生徒、総計321点の応募があり、11月22日に書類審査で選ばれた10点の作品が実演され、「おいしさ」「アイディアの斬新さ」「誰でも作れる普及性」を競いました。

教育長賞を受賞した金川さんの作品は、なすをズッキーニに、ミニトマトをパプリカに代えるなど、さまざまなバリエーションで楽しめることや、チーズケーキなので翌日に食べても味が落ち着いておいしい点などが評価されました。

2010年度 決 算 概 要 （2010年4月1日から2011年3月31日まで）

天使大学ホームページでも決算概要を公開しています。2011年度決算概要は2012年6月に公開予定です。

天使学園　資金収支計算書

（単位：円）

支出科目	予算	2010年度	増減	収入科目	予算	2010年度	増減
人件費支出	896,635,000	889,906,498	6,728,502	学生生徒等納付金収入	1,108,025,000	1,108,884,333	△859,333
教育研究経費支出	275,336,000	254,328,474	21,007,526	手数料収入	21,300,000	24,665,600	△3,365,600
管理経費支出	69,305,000	59,167,721	10,137,279	寄付金収入	19,250,000	19,670,000	△420,000
施設関係支出	13,734,000	13,733,350	650	補助金収入	211,074,000	214,173,586	△3,099,586
設備関係支出	34,239,000	26,851,942	7,387,058	国庫補助金収入	211,000,000	214,105,000	△3,105,000
資産運用支出	749,000,000	749,000,000	0	地方公共団体補助金収入	74,000	68,586	5,414
その他の支出	27,436,746	27,436,466	280	資産運用収入	10,750,000	11,436,580	△686,580
予備費	4,722,000		4,722,000	事業収入	13,280,000	14,077,870	△797,870
資金支出調整勘定	△16,000,000	△17,495,195	1,495,195	雑収入	35,575,000	36,566,935	△991,935
次年度繰越支払資金	1,346,871,044	1,388,714,536	△41,843,492	前受金収入	610,715,000	608,300,000	2,415,000
				その他の収入	131,956,158	132,987,830	△1,031,672
				資金収入調整勘定	△610,170,000	△628,642,574	18,472,574
				前年度繰越支払資金	1,849,523,632	1,849,523,632	0
支出の部　合計	3,401,278,790	3,391,643,792	9,634,998	収入の部　合計	3,401,278,790	3,391,643,792	9,634,998

資金収支計算書は、学園の1年間のお金の動きを表示したもので年度末にいつでも引き出すことができるお金がいくらあるかを計算する計算書です。資金収入には、授業料、補助金等、資金支出には、教職員給与、消耗品、水道光熱費、建物、機器備品等の購入を含めすべてを計上します。

天使学園　消費収支計算書

（単位：円）

支出科目	予算	2010年度	増減	収入科目	予算	2010年度	増減
人件費	909,115,000	901,346,001	7,768,999	学生生徒等納付金	1,108,025,000	1,108,884,333	△859,333
(内退職給与引当金繰入額)	(39,100,000)	(38,512,823)	(587,177)	手数料	21,300,000	24,665,600	△3,365,600
教育研究経費	375,736,000	354,643,135	21,092,865	寄付金	22,650,000	23,413,210	△763,210
(内減価償却額)	(100,400,000)	(100,314,661)	(85,339)	補助金	211,074,000	214,173,586	△3,099,586
管理経費	73,305,000	63,090,323	10,214,677	国庫補助金収入	211,000,000	214,105,000	△3,105,000
(内減価償却額)	(4,000,000)	(3,922,602)	(77,398)	地方公共団体補助金収入	74,000	68,586	5,414
資産処分差額	2,200,000	2,083,336	116,664	資産運用収入	10,750,000	11,436,580	△686,580
予備費	5,400,000		5,400,000	事業収入	13,280,000	14,077,870	△797,870
消費支出の部　合計	1,365,756,000	1,321,162,795	44,593,205	雑収入	35,575,000	36,566,935	△991,935
当年度消費支出超過額	118,072,000	54,835,316	63,236,684	帰属収入合計	1,422,654,000	1,433,218,114	△10,564,114
前年度繰越消費収入超過額	296,613,473	296,613,473	0	基本金繰入額　合計	△174,970,000	△166,890,635	△8,079,365
翌年度繰越消費収入超過額	178,541,473	241,778,157	△63,236,684	消費収入の部　合計	1,247,684,000	1,266,327,479	△18,643,479

学校法人の負債とならない収入のことで、実質的な法人の収入をいいます。

消費収支計算書は、学園の1年間の諸活動から経営が健全に行われているかどうかを把握するための計算書です。消費収入と消費支出を比べて収入が上回れば「消費収入超過額」、反対に支出が上回れば「消費支出超過額」となります。学校法人が将来にわたって維持発展するためには、消費収入と消費支出の均衡する財務体質が求められます。

天使学園　貸借対照表（2011年3月31日現在）

（単位：円）

	2010年度	2009年度	対前年度増減
資産の部			
固定資産	3,855,120,416	3,267,500,513	587,619,903
有形固定資産	2,473,424,016	2,535,416,113	△61,992,097
土地	438,082,994	438,082,994	0
建物	1,565,145,510	1,618,552,554	△53,407,044
その他有形固定資産	470,195,512	478,780,565	△8,585,053
その他の固定資産	1,381,696,400	732,084,400	649,612,000
流動資産	1,437,660,830	1,881,369,207	△443,708,377
現金預金	1,388,714,536	1,849,523,632	△460,809,096
その他流動資産	48,946,294	31,845,575	17,100,719
資産の部　合計	5,292,781,246	5,148,869,720	143,911,526

	2010年度	2009年度	対前年度増減
負債の部			
固定負債	273,090,261	261,645,758	11,444,503
退職給与引当金	273,016,261	261,576,758	11,439,503
その他固定負債	74,000	69,000	5,000
流動負債	661,051,744	640,640,040	20,411,704
負債の部　合計	934,142,005	902,285,798	31,856,207
基本金の部			
第1号基本金	3,880,861,084	3,843,970,449	36,890,635
第2号基本金	130,000,000	0	130,000,000
第3号基本金	20,000,000	20,000,000	0
第4号基本金	86,000,000	86,000,000	0
基本金の部　合計	4,116,861,084	3,949,970,449	166,890,635
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	241,778,157	296,613,473	△54,835,316
消費収支差額の部合計	241,778,157	296,613,473	△54,835,316
負債の部基本金の部及消費収支差額の部合計	5,292,781,246	5,148,869,720	143,911,526

基本金とは、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うために必要な資産（校地、校舎、機器備品、図書等）を継続的に保持しなければならないもので、教育水準の維持向上と学園の円滑な運営を図るために、常に維持しなければならないものです。

貸借対照表は、当該年度末において学園が保有する資産、負債、消費収支差額を一覧表示したものです。

天使学園・財産目録（2011年3月31日現在）

（単位：円）

科目	金額			
Ⅰ　資産の部				
1　基本財産				
（1）　土地　札幌市北13条東3丁目30番73他4筆	30,390.2800㎡	438,082,994		
（2）　建物　1号館 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 2階建他9棟	14,124.1713㎡	1,565,145,510		
（3）　構築物		12,177,421		
（4）　教育研究用機器備品	1,928点	112,386,210		
（5）　少額重要資産	5,594点	31,266,831		
（6）　その他機器備品	285点	3,831,789		
（7）　図書	97,032冊	310,533,261		
（8）　電話加入権		384,400		
基本財産　計			2,473,808,416	
2　運用財産				
（1）　現金・預金		1,388,714,536		
（2）　積立金		1,347,950,000		
（3）　未収入金		37,472,574		
（4）　長期貸付金		33,362,000		
（5）　短期貸付金		11,473,720		
運用財産　計			2,818,972,830	
資産の部　合計				5,292,781,246
Ⅱ　負債の部				
1　固定負債				
（1）　退職給与引当金		273,016,261		
（2）　長期預り金		74,000		
固定負債　計			273,090,261	
2　流動負債				
（1）　未払金		17,495,195		
（2）　前受金		608,300,000		
（3）　預り金		35,256,549		
流動負債　計			661,051,744	
負債の部　合計				934,142,005
正味財産				4,358,639,241

監　査　報　告　書

2011年5月16日

学校法人 天使学園
理事会　御中
評議員会　御中

学校法人 天使学園
監事　冨来　正博
監事　土産田　照夫

私たちは、学校法人天使学園（以下「本法人」）の監事として、私立学校法第37条第3項及び本法人寄付行為第15条の定めに基づいて、2010年度（2010年4月1日から2011年3月31日まで）における本法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

監査にあたっては、財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）、事業報告書並びに重要な決裁書類等の閲覧などを行いました。

財産の状況については、私立学校振興助成法第14条第3項の定めに基づく公認会計士監査に依拠し、その実施状況を検討、併せて監査結果についての意見を聴取いたしました。

監査の結果、本法人の業務並びに財産の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以　上

2012年度 天使大学・大学院入学試験結果

※2012年3月26日現在
※(　)は昨年度の数字です

看護栄養学部

◆看護学科

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
指定校推薦	40	5 (7)	5 (7)	5 (7)	1.0
公募制推薦		53 (41)	53 (41)	35 (33)	1.5
社会人	37	25 (29)	25 (29)	6 (9)	4.2
一　般		318 (354)	315 (350)	64 (61)	4.9
センター利用	10	130 (117)	130 (117)	25 (27)	5.2
総　計	87	531 (548)	528 (544)	135 (137)	3.9

◆栄養学科

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
指定校推薦	45	5 (5)	5 (5)	5 (5)	1.0
公募制推薦		51 (54)	51 (54)	40 (40)	1.3
社会人	30	1 (3)	1 (3)	1 (0)	1.0
一　般		101 (103)	101 (102)	42 (41)	2.4
センター利用	10	59 (62)	59 (62)	18 (16)	3.3
総　計	85	217 (227)	217 (226)	106 (102)	2.0

◆栄養学科(3年次編入)

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
	5	5 (8)	5 (8)	5 (5)	1.0

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
前期	8	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0
後期		1 (4)	1 (4)	1 (4)	1.0
総　計	8	2 (4)	2 (4)	2 (4)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
前期	3	0 (1)	0 (1)	0 (1)	—
後期		4 (0)	4 (0)	4 (0)	1.0
総　計	3	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
前期	2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—
後期		0 (1)	0 (1)	0 (1)	—
総　計	2	0 (1)	0 (1)	0 (1)	—

大学院 助産研究科

	試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
	推薦	10	8 (13)	8 (13)	7 (12)	1.1
基礎分野	前期一般	15	13 (11)	13 (11)	11 (8)	1.2
基礎分野	前期社会人		2 (6)	2 (6)	2 (4)	1.0
基礎分野	後期一般	5	2 (3)	2 (3)	1 (1)	2.0
基礎分野	後期社会人		0 (2)	0 (2)	0 (1)	—
教育分野	前期	10	3 (2)	3 (2)	3 (1)	1.0
教育分野	後期		0 (1)	0 (1)	0 (1)	—
	総　計	40	28 (38)	28 (38)	24 (28)	1.2

今後の主な予定(4月～9月)

- 4月　3日　入学式
- 24日　イースターの集い・学生総会
- 5月　16日　合唱コンクール
- 6月　15・16日　天使祭

2012年度オープンキャンパス日程

看護栄養学部

第1回 6月16日(土) 11:00～14:00　天使祭と同時開催
- 個別相談 ほか(大学院の相談コーナーもあり)
- 栄養学科3年次編入学試験説明会も開催

第2回 8月6日(月) 看護学科 13:00～17:30 / 8月10日(金) 栄養学科 13:00～17:30
- 全体説明会、模擬授業 ほか
- 事前申込み必要(6月下旬から受付開始予定)

第3回 10月6日(土) 13:00～15:30
- 入試説明、個別相談、施設見学 ほか

大学院助産研究科

ミニオープンキャンパス 6月16日(土) 12:00～12:45
- 助産研究科説明、教員による個別相談

オープンキャンパス 8月25日(土) 13:00～16:00
- 助産研究科説明、施設見学、個別相談 ほか

東京説明会 9月1日(土) 13:00～14:30
- 助産研究科説明、個別相談 ほか

※詳細は、天使大学ホームページでご確認ください。

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先　〒065-0013　北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30　天使大学広報委員会　tel　011-741-1051　fax　011-741-1077

天使大学　看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第18号　2012年3月30日　発行　天使大学広報委員会
http://www.tenshi.ac.jp